

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 24

学校名・団体名	濃飛の会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	上級生が下級生に科学遊びを教え、みんな元気になる
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>岩手県山田町は、先の東日本大震災で15mを超える津波に襲われ、半数以上の家屋が被災した。復興が進められているが、子どもの心には津波のことは恐怖になっており様々な心のケアが行われている。昨年に引き続き、科学遊びの材料を準備して、親から子へ、上級生から下級生へ科学の楽しさを伝えてもらうことで、復興に弾みをつける1つとしようと考えた。科学の面白さ・奥深さを感じる教材を手にして生き生きと実験に取り組み、元気になる子どもたちの姿を求めた。</p>	

12月17日(日)「鯨と海の科学館」 住所 岩手県下閉伊郡山田町船越7-50-1において「楽しい理科教室」in 鯨と海の科学館を開催した。

内容は、様々な理科工作の材料を準備し、親子や上級生下級生が一緒になってつくり、楽しさを実感する。

事前に、山田町教育委員会生涯学習課長であった舟田春樹氏に各小学校をまわっていただき、パンフレットを配布していただいた。また、近隣の道の駅などにも合わせてパンフレットを設置していただいた。おかげで、事前の申し込みで、20名を越える応募があった。

当日は、23名の小学生に加え、その保護者をあわせ、50名を越える方が参加された。

簡単につくることができる教材、少し難しい教材、難しい教材とつくる難易度を様々に設定し、どの子ども楽しめるように教材を準備した。また、身近な材料で出来る科学おもちゃも紹介し、家で何度もついたり、学校で友達に教えてあげたりできるようにした。



風船で静電気を起こす

今回紹介した教材

- ・化石レプリカ ・粘土で船造り ・スライムづくり
- ・クリップモーター ・電気くらげ ・浮沈子
- ・スーパーボールでロケット ・ストロー笛 その他理科キット



浮沈子づくり 中の容器が浮いたり沈んだり

参加した子どもの感想

- ・こんな身近なもので面白いおもちゃが出来るなんてすごい。
- ・すっ飛びロケットが思ったより飛んでびっくりした。
- ・また、やりたい。
- ・友達にも教えてあげたい。
- ・浮沈子が浮いたり静生んだりするのが不思議。
- ・電気くらげはうまくうかせられなくて悔しい。

時間内につくりきれなかったキットについても持ち帰ってもらい、今回参加していない友達に教えてあげながら作って楽しむ姿が期待できる。

鯨と海の科学館は東日本大震災による津波で被災し、復旧工事を終えて、今年6年半ぶりに開館しました。鯨館は、クジラを通して三陸の海、そしてこの海をつくり育ててきた自然の素晴らしさを学び、体感することができる博物館です。今回の講座を通して、地元の子どもたちが鯨館に足を運びきっかけにもなることが期待できる。



ストロー笛 長さで音が違う!

当日の様子は、山田町観光協会のブログでも紹介していただきました。科学の面白さを体験して、たくさんの笑顔が紹介されています。



すっ飛びロケット よく飛び!

